

セーフコミュニティちちぶ 交通安全対策委員会



再認証 国際審査

発表者：委員長 金子 理恵子

所属：秩父タクシー協会

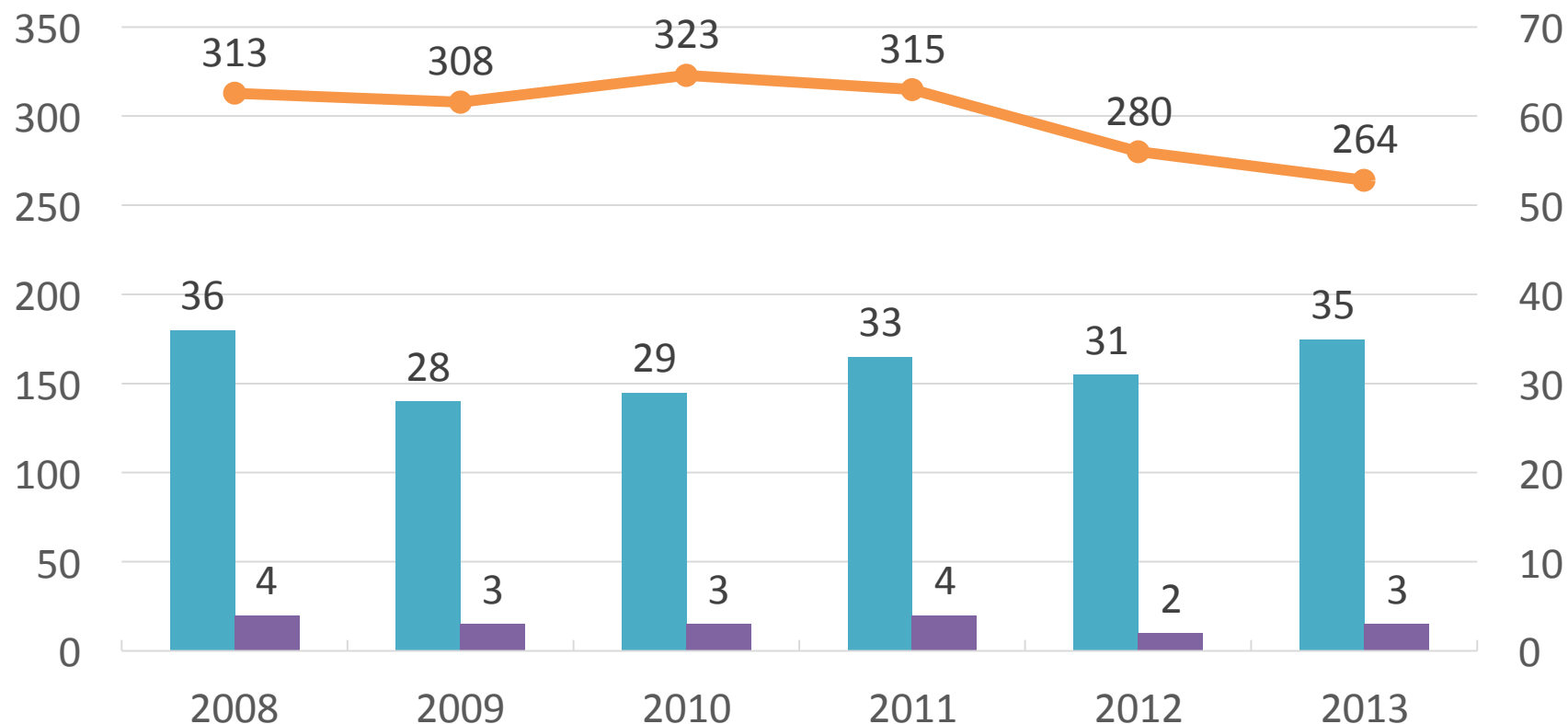
対策委員会設置の背景①

- 秩父市内の交通事故発生件数は、年々減少
- 一方、**死亡事故の発生件数は横這い**

(図表 1： 秩父市内の交通事故発生件数の推移 重傷者数および死者数の推移)

■ 重傷 ■ 死亡 ● 発生件数

出典：警察統計データ(2008年～2013年)

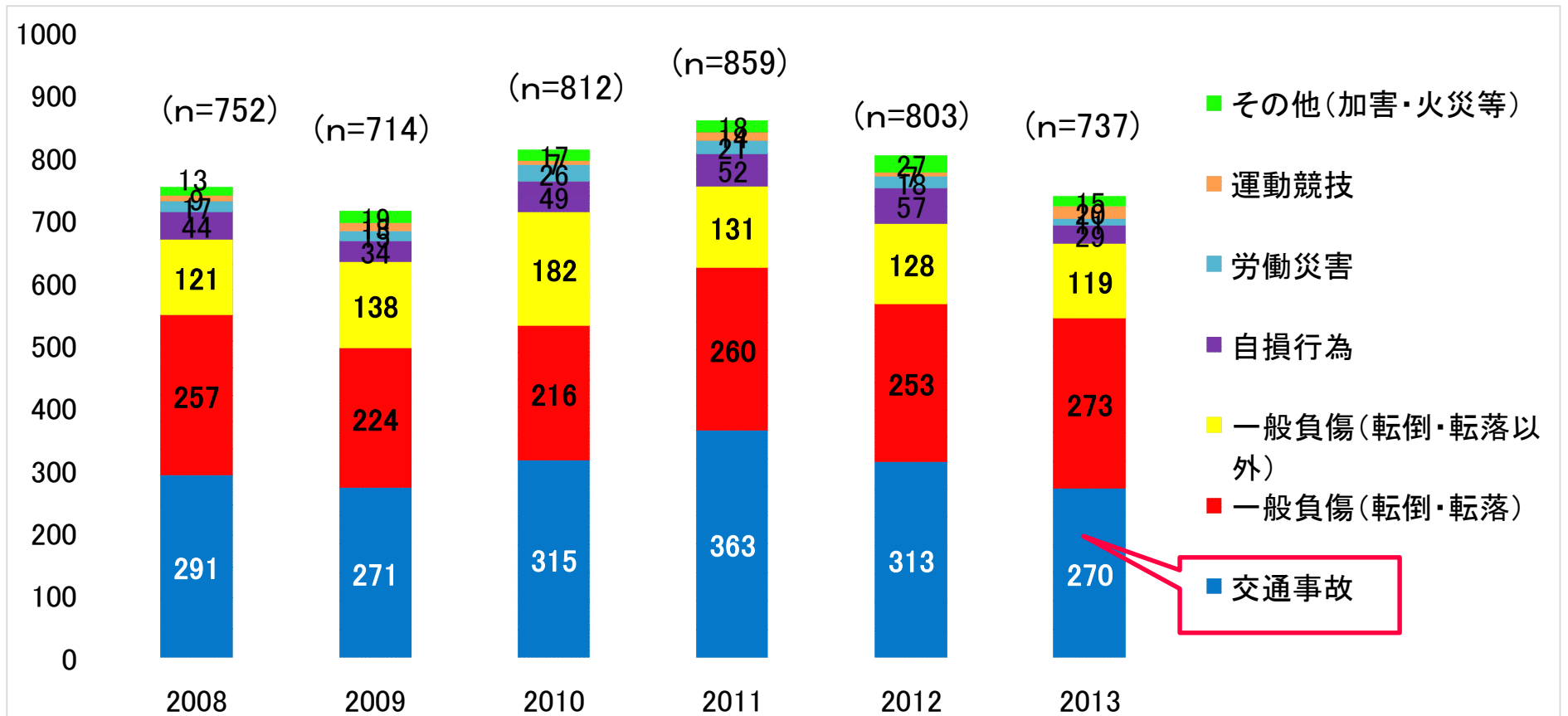


対策委員会設置の背景②

救急搬送の中では、「交通事故」が多かった
(救急搬送の約40%は交通事故による外傷)

(図表2 : 事故種別による分類 外傷・事故別救急出動件数) (n = 総数)

出典 : 救急搬送データ (2008年 ~ 2013年)

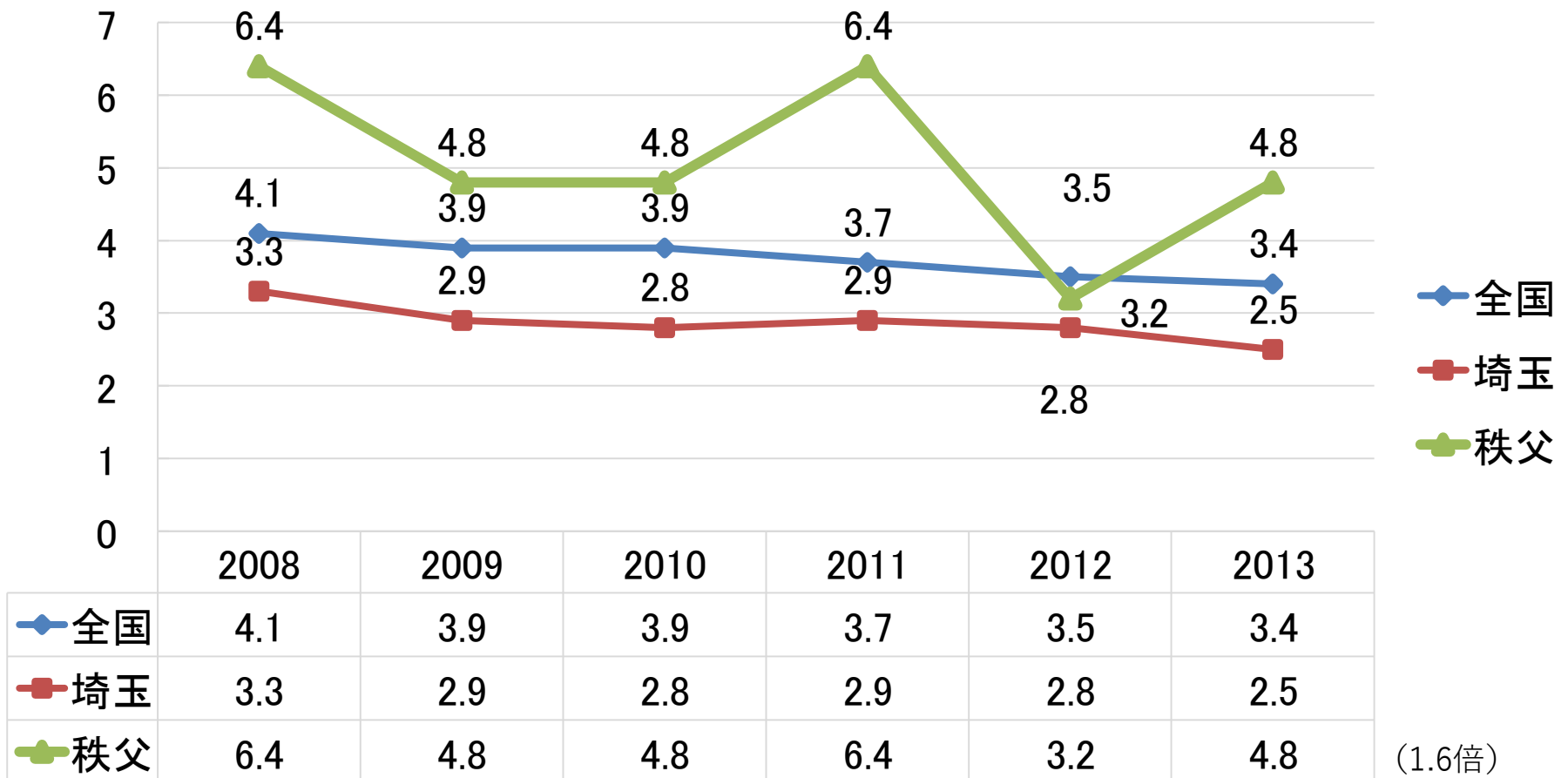


対策委員会設置の背景③

市内の交通事故死亡件数は国や県を上回った

(図表3 : 交通死亡事故発生件数の推移 件数及び人口10万人あたり)

出典: 警察統計データ(2008年~2013年)

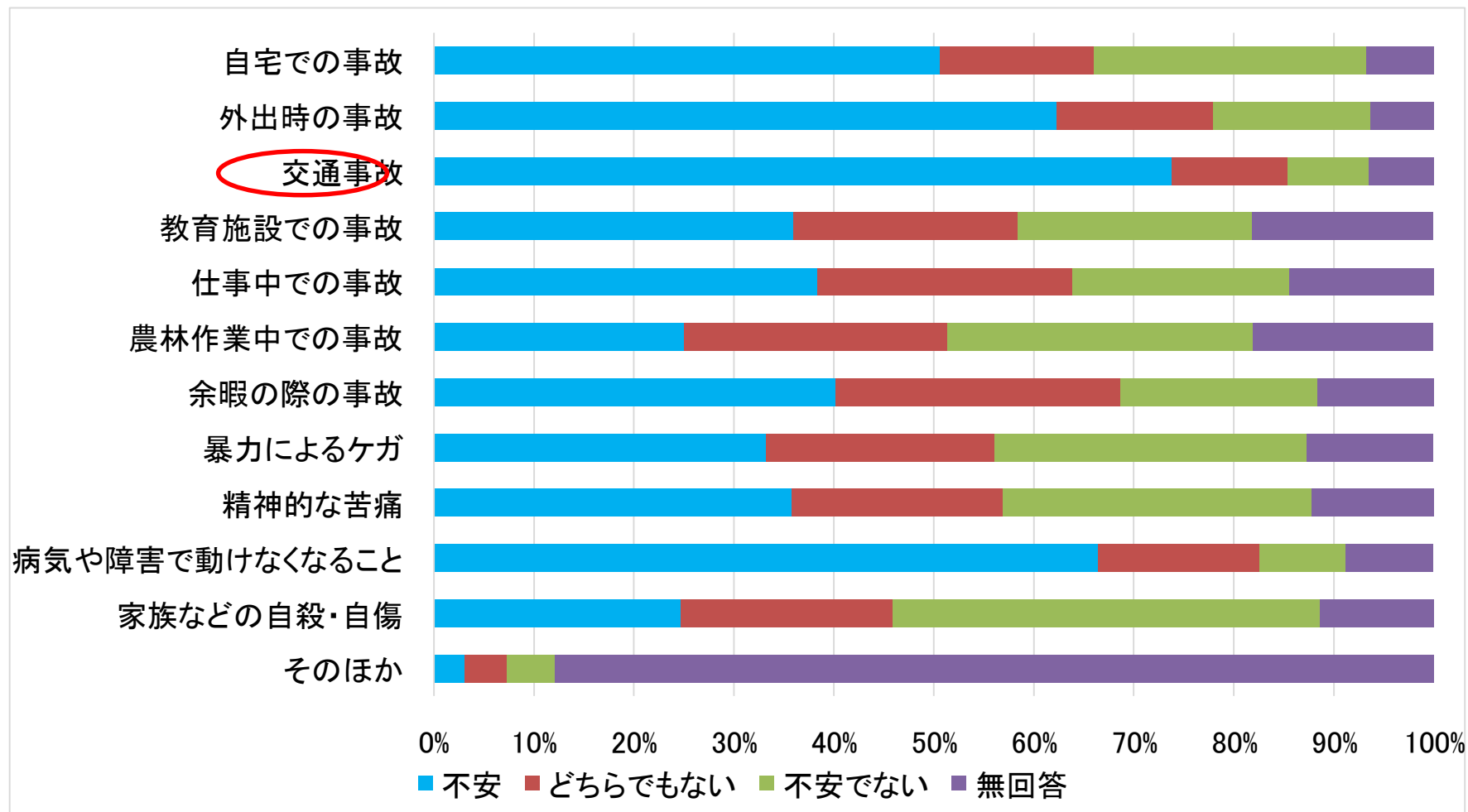


対策委員会設置の背景④

7割以上の市民が交通事故に対して不安をもっていた

(図表4 : 事故に対する不安の市民アンケート結果)

出典 : 秩父市安心・安全アンケート(2013年)



交通安全対策の必要性

背景①

秩父市内の交通事故発生件数は年々減少しているが、まだ多い状況であった。(図表1)

背景②

事故別の救急搬送の中で交通事故が多かった。(図表2)

背景③

秩父市内の死亡交通事故発生件数は、国や県を上回っていた。(図表3)

背景④

交通事故に対して不安を感じている人が多かった。(図表4)



交通安全対策委員会の設置

交通安全対策委員会の構成

区分	団体・組織名	委員数
住民組織等	秩父タクシー協会	1名
	秩父市交通安全母の会	1名
	秩父市町会長協議会	1名
	秩父地方交通安全協会	1名
	秩父市交通指導員	1名
	秩父市交通安全教育担当指導員	1名
	秩父地区交通安全推進事業所協会 new	1名
	埼玉県道路使用適正化協会秩父支部 new	1名
警察	秩父警察署	1名
	小鹿野警察署 new	1名
行政機関	埼玉県秩父県土整備事務所	1名
	秩父市（道路維持課、市民生活課、公募職員）	4名

交通安全対策委員会の経過

回数	開催日	主な会議内容
第16回 ～ 第35回	2016年 5月 ～ 2021年 3月	取組み①～⑦について協議 「取組みの充実・周知・新規」、「課題の整理と対策」、「成果と評価指標」、「アンケートの結果」、「連携強化と効果的な取組み」、「効果的な引継ぎ」について
	2016年 10月19日	◆SC認証1周年記念イベント(箕輪町SC関係者による講演会とSC取組み報告)
	2017年 9月10日	横浜市栄区SC事前指導視察
	2017年 11月25日	◆市民安全・安心フォーラム2017inちちぶ(SC認証2周年記念イベント)有識者によるSC分科会等の開催
	2018年 5月 2019年 5月	◆SC講演会(新委員向け研修含む)
	2018年 8月	防犯講演会参加「子どもと地域の安全をどう守るか」
	2019年 2月1日	◆SC事業報告会(SC認証3周年記念)
	2019年 10月 8日	◆SC再認証事前審査(SC認証4周年記念)

データに基づく客観的課題①

交通事故の歩行者の事故件数では、高齢者が多い。

(図表5:重傷、死亡事故の年齢別当事者 n=332)

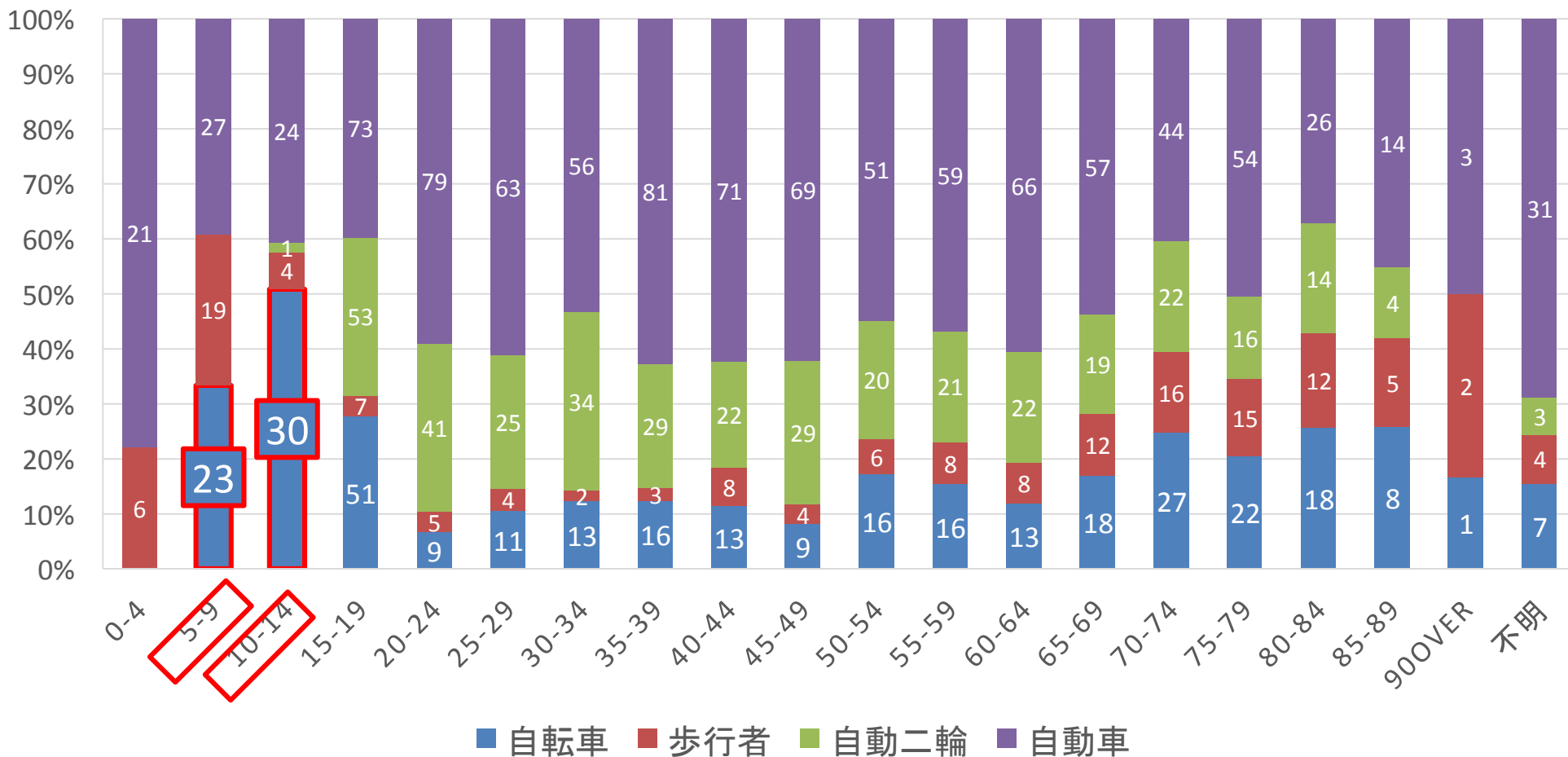
出典：警察統計データ (2013~2018)

年齢	自動車			バイク・原付			自転車			歩行者			単位:人
	第1	第2	計	第1	第2	計	第1	第2	計	第1	第2	計	合計
0~4			0			0			0		1	1	1
5~9			0			0	2		2		1	1	3
10~14			0			0	3	1	4		1	1	5
15~19	7		7	2	4	6	1	4	5			0	18
20~24	14	5	19	3		3			0		1	1	23
25~29	8	1	9	2	3	5			0		3	3	17
30~34	11	2	13		3	3			0		1	1	17
35~39	7	5	12	2	2	4		2	2		2	2	20
40~44	11	1	12		3	3	1		1		3	3	19
45~49	12	2	14	1	9	10		1	1		1	1	26
50~54	6	6	12	1	3	4		2	2		2	2	20
55~59	9	5	14	1	3	4		1	1		6	6	25
60~64	9	1	10	1	2	3		1	1		5	5	19
65~69	20	1	21	2	1	3	1	1	2	1	6	7	33
70~74	14	3	17	1	1	2			0		12	12	31
75~79	8	2	10	1		1	1	3	4		9	9	24
80~84	3	1	4	1	1	2	2		2	1	10	11	19
85~89		1	1		1	1	2		2		4	4	8
90~			0	1		1	2		2		1	1	4
計	139	36	175	19	36	55	15	16	31	2	69	71	332

データに基づく客観的課題②

交通事故を割合別で見ると、5~14歳の自転車事故の割合が多い

(図表6:交通事故の年代別発生状況 n=1,815) 出典: 救急搬送データ (2008~2013年)

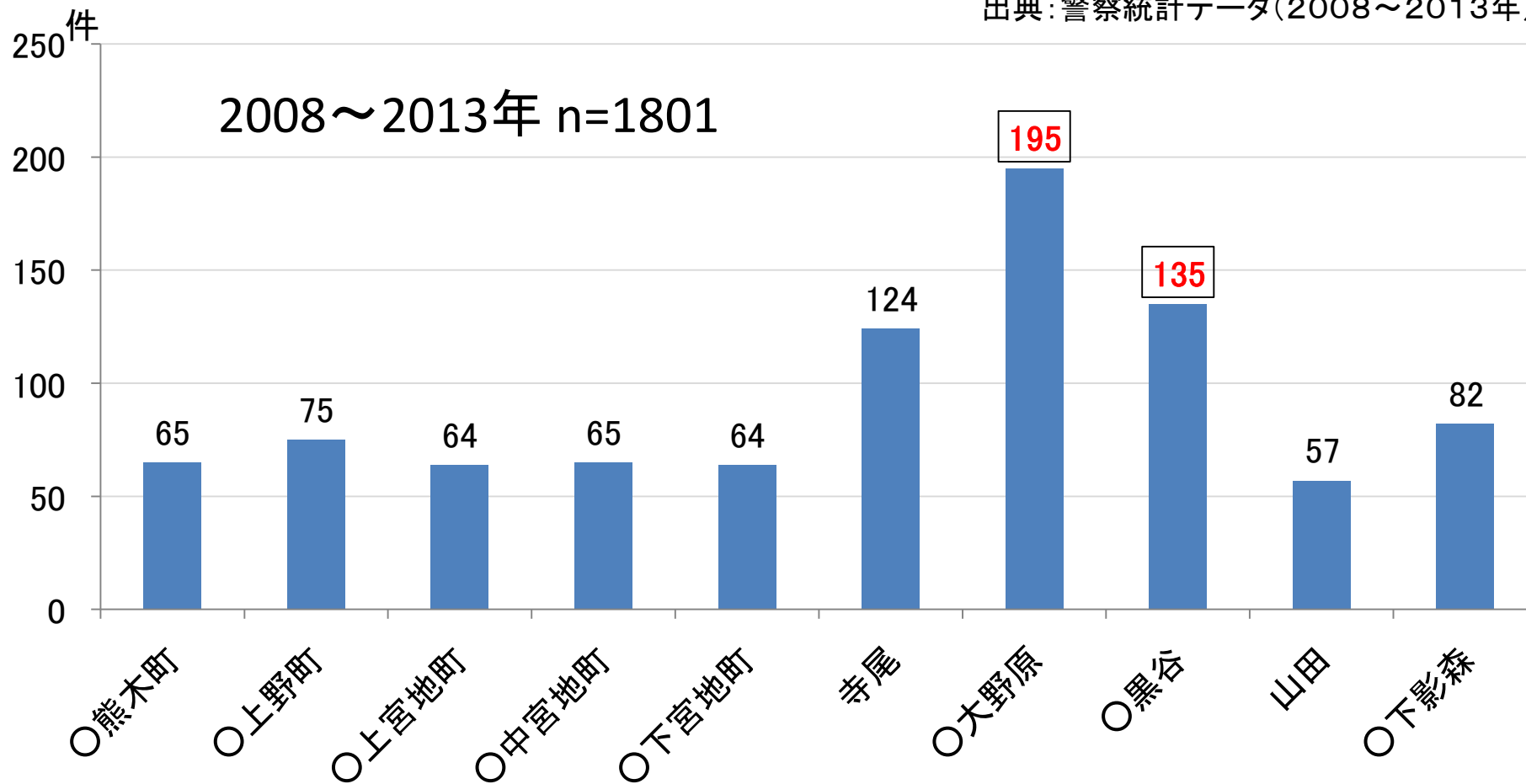


データに基づく客観的課題③

- ・国道140号沿い（特に大野原地区、黒谷地区）での発生が多い

（図表7:上位10地区別交通事故発生件数）

出典：警察統計データ(2008～2013年)



・8地区(○印)は、国道140号沿い

データに基づく客観的課題④

- ・ 国道140号線、県道など主要幹線の特定の場所で事故が多い

人身事故発生地点(2016年4月1日～2019年3月31日)



★ 軽傷事故

★ 重傷事故

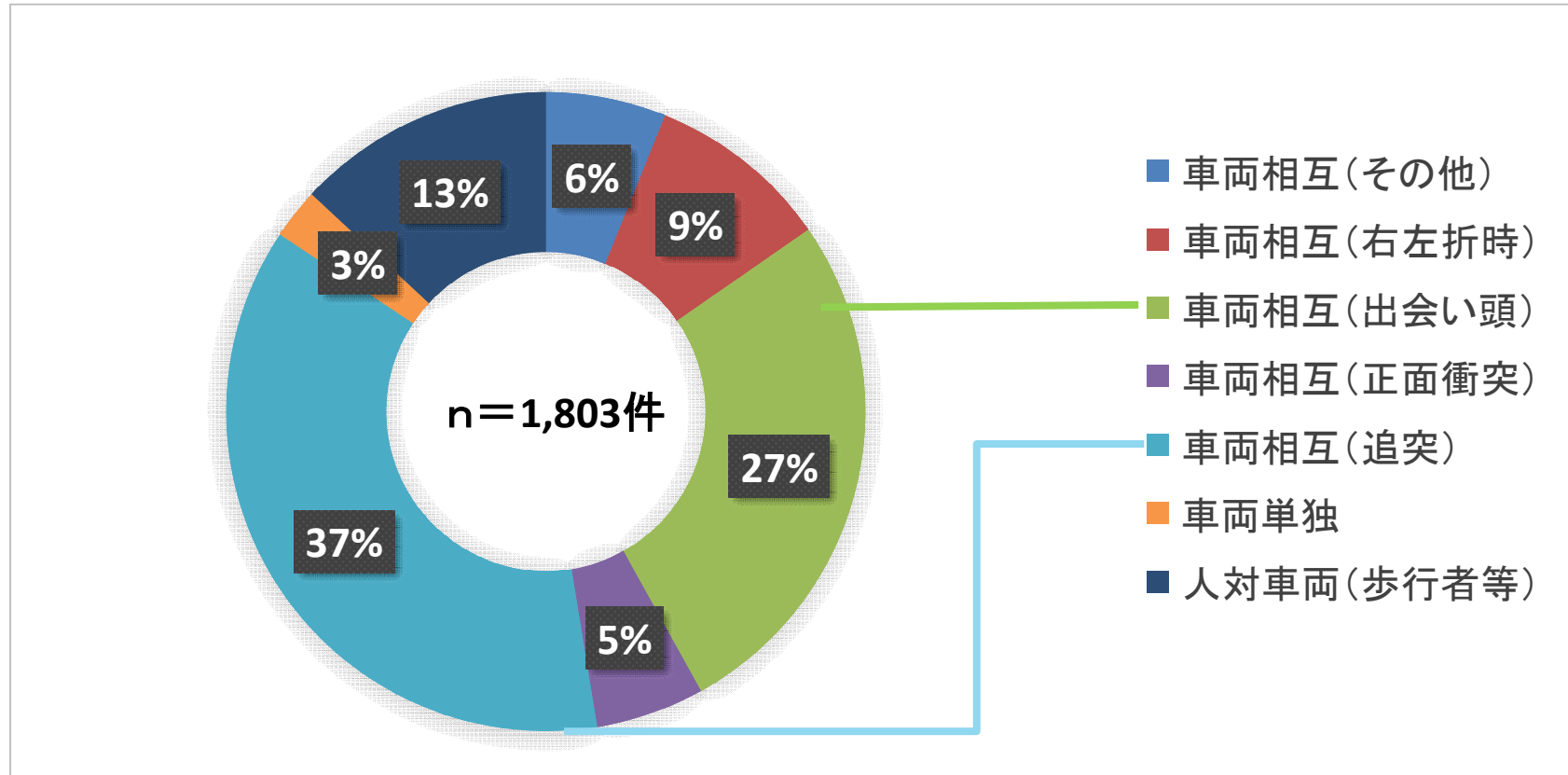
★ 死亡事故

データに基づく客観的課題⑤

- 事故種別は、「追突事故」が最も多く、「出会い頭」が続く両方で事故の6割以上を占める

(図表8:秩父市全体の事故種別発生割合)

出典:警察統計データ(2008年~2013年)



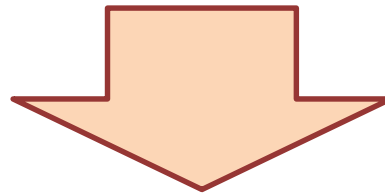
重点対象

課題① 高齢者の歩行中での事故が多い。

課題② 子どもの自転車乗車中の事故が多い。

課題③ 特定の路線で、交通事故が多い。(大野原、黒谷地区を含む国道140号)

課題④ 追突事故が多い。



重点対象：子ども、高齢者、事故多発地域



課題に対する取組み

課題

課題①

高齢者の歩行中での交通事故が多い。

課題②

子どもの自転車乗車中の事故が多い。

課題③

特定の地区で、事故が多い。

課題④

追突事故が多い。

方向性

方向性①

交通安全意識及び安全行動の改善

方向性②

事故多発地域に対する事故防止対策の強化

取組み

取組み①

交通安全教室(高齢者)

取組み②

高齢者世帯訪問

取組み③

交通安全教室(子ども)

取組み④

プロドライバーからの情報収集

取組み⑤

街頭キャンペーン

取組み⑥

道路環境の整備

取組み⑦<新>

セーフドライブプロジェクト

課題①②に対するレベル別の対策

課題	対策			
	方向性	国・県レベル	市レベル	地域レベル
<p>(課題①) 高齢者の歩行 中での事故が 多い。</p> <p>(課題②) 子どもの自転 車乗車中での 事故が多い。</p>	教育・啓発	<ul style="list-style-type: none"> ◆交通安全計画の策定 	<ul style="list-style-type: none"> ◆交通安全教室 ◆市報での啓発 ◆自転車ヘルメット購入補助金制度 	<ul style="list-style-type: none"> ◆各学校、老人クラブ等での交通ルール・マナーの啓発
	規制・罰則	<ul style="list-style-type: none"> ◆道路交通法による規制・罰則 ◆埼玉県自転車の安全な利用の促進に関する条例 ◆警察の取締り 		
	環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ◆規制に関連する道路標識の設置(止まれ等) 	<ul style="list-style-type: none"> ◆通学路対策 ◆路面標示、立看板の設置(ゾーン30等) 	<ul style="list-style-type: none"> ◆立看板の申請

交通安全対策委員会の取り組み

- ・交通安全教室(自転車ヘルメット啓発)
- ・高齢者世帯訪問
- ・プロドライバーからの情報収集
- ・自転車ヘルメット購入補助金利用促進

課題③④に対するレベル別の対策

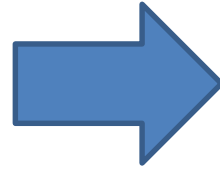
課題	対策			
	方向性	国・県レベル	市レベル	地域レベル
<p>(課題③) 特定の場所での事故が多い。</p> <p>(課題④) 追突事故が多い。</p>	教育・啓発	<ul style="list-style-type: none"> ◆交通安全計画の策定 	<ul style="list-style-type: none"> ◆街頭キャンペーン ◆高齢者交通安全教室 	
	規制・罰則	<ul style="list-style-type: none"> ◆道路交通法による規制 		
	環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ◆速度抑制路面標示 ◆国・府道の道路整備工事等の実施 ◆信号機、横断歩道の設置 	<ul style="list-style-type: none"> ◆交通安全啓発用立看板 ◆市道の道路整備工事等の検討、計画、整備の実施(町会からの要望含む) 	<ul style="list-style-type: none"> ◆道路、路面標示等の整備、工事について、町会から市へ要望を提出。

交通安全対策委員会の取り組み
 ・街頭キャンペーン
 ・セーフドライブプロジェクト(new)

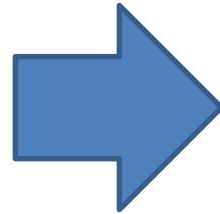
交通安全対策委員会の取り組み
 ・道路環境の整備



整備前



整備後





整備前



整備後



取組み① 交通安全教室(高齢者)

警察や交通指導員等が協力し、年齢に応じた交通安全教室を実施
交通安全教室終了後、対策委員会で作成したアンケート調査を行い結果を反映

高齢者の歩行中の事故時間別発生件数

	0～6時	6～12時	12～18時	18～24時	計
2013	1死	3重	3重・1死	2重	10
2014		1重	4重・1死	1重・1死	8
2015		3重	3重	3重	9
2016		1重	3重	1死	5
2017		4重・1死	3重		8

出典:警察統計データ(2013年～2017年)



交通安全教室の最後に、反射材をその場で着用してもらう



取組み② 高齢者世帯訪問

各種会合等に参加しない高齢者世帯を訪問し、直接に交通安全を啓発
(重点：早朝・夜間の反射材着用の啓発)

交通安全母の会による配布



交通安全母の会による配布



啓発品

取組みの強化

2018年から、民生児童委員の方にも協力していただき配布を実施。

評価

①. 交通安全教室(高齢者)・②高齢者世帯訪問

	内容	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
活動 ①	高齢者交通安全教室 の実施回数、参加人数	32回 1,070人	37回 1,159人	38回 1,254人	39回 1,264人	46回 1,307人	40回 1,112 人
活動 ②	高齢者世帯訪問の訪 問人数	597人	468人	592人	453人	552人	539人
短期	交通ルールに対する 意識の向上(交通安全 教室終了後)	2018年より実施				交通ルール を守ろうと思 う 100 % n=582	交通ルール を守ろうと思 う 100% n=572
中期	反射材の着用に対す る行動変化(交通安全 教室終了後)	2018年より実施				今後着用す る →51% 夜間着用し ている →38% n=582	今後着用す る →61% 夜間着用し ている →36% n=529
長期	高齢者の交通事故発 生件数 (割合)	84件 (0.44%)	78件 (0.39%)	74件 (0.37%)	84件 (0.41%)	58件 (0.28%)	78件 (0.38%)

取組み③ 交通安全教室(子ども)

- 小学生・中学生に自転車の交通安全利用を重点的に啓発（一時停止、ヘルメット着用、道路横断時の安全確認など）。
- 終了後、対策委員会によるアンケートを調査を実施し、結果を講習に反映する。



自転車ヘルメット
購入補助金
上限2,000円



いのちを守る 自転車ヘルメット
家族みんなで着用を

自転車ヘルメット購入補助金をご利用ください

埼玉県によると、もし自転車ヘルメットを着用していれば、死亡事故に至らなかった可能性のある事故が、過去2年間に27件起きているとのこと。さらに、秩父警察署によると、もし、ヘルメットを着用していれば、怪我の程度が軽減された可能性のある人身事故が複数発生しているとのこと。ヘルメットを着用することは、「自分の身は自分で守る」ことにつながるのではないだろうか。

【対象者】
秩父市内に住所を有するすべての方
※ただし、18歳未満の方が使用するヘルメット補助金は保護者の方が申請してください。
【補助金】
平成29年4月1日以降に購入した自転車ヘルメットについて、上限2,000円を補助します。
(2,000円未満の場合は実費)
※使用者1人につき1回限り

【申請方法】
裏面に記載の協力事業所でヘルメットを購入する際、申請書に店頭の証明を受けたうえで、必要事項を記入し市民生活課へ提出してください。
申請書は各協力事業所でご用意してあります。市民生活課でも配布しています。

【申請に必要なもの】
1. 秩父市自転車ヘルメット着用促進補助金交付申請書兼請求書
2. 申請者の免許証・保険証・個人番号カードなどの身分証明書
3. 通帳やキャッシュカードなど補助金の振込先がわかるもの
4. 申請者の印鑑

【ご注意】
対象となるヘルメットは、一般財団法人製品安全協会が定める50基準に適合するものとして製品安全協会の認証を受けたもの、またはこれに相当する安全基準（※）を満たしているものとします。
※ECE、CPSC、ASTM、JIS公認

申請先・問い合わせ先
〒368-8686 秩父市船木町9番15号
秩父市役所 市民生活課(本庁舎2階)
電話：0494-26-1133 FAX：0494-26-1132

「止まる、見る、待つ、確かめる」
幼稚園～小学校6年生まで毎年指導

取組みの強化

- 単語で繰り返し確かめる活動の実施
- 自転車ヘルメット購入補助金の利用促進

評価

交通安全教室(子ども)

	内容	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
活動	子どもの交通安全教室の実施回数、参加人数	49回 4,543人	51回 4,583人	53回 4,819人	50回 4,890人	43回 4,672人	50回 4,428人
短期	交通ルールに対する意識の向上(交通安全教室終了後)	2018年より実施				交通ルールを守ろうと思う 98%	交通ルールを守ろうと思う 91%
中期	自転車ヘルメットの着用率	2018年より実施				<ul style="list-style-type: none"> ・着用している →36% ・たまに着用している →16% ・もっていない →36% n=136 	<ul style="list-style-type: none"> ・着用している →42% ・たまに着用している →11% ・もっていない →31% n=149
長期	子どもの自転車事故受傷件数(重傷)	13件 (3件)	18件 (2件)	7件 (3件)	12件 (0件)	6件 (0件)	1件 (0件)

取組み④ プロドライバーからの情報収集

タクシードライバー、路線バスドライバーなどプロの視点から交通マナーについてアンケートを実施し、データを収集

2019年2月実施アンケート結果 【()は2015年データ】

	徒歩	自転車	バイク	自動車	その他	合計
子ども	0(1)	1(0)	0(0)	0(0)	0(0)	1(1)
中高生	2(2)	8(7)	0(1)	0(0)	0(0)	10(10)
大人	7(16)	6(8)	4(5)	8(38)	1(7)	26(74)
高齢者	6(4)	10(12)	3(0)	10(11)	1(3)	30(30)
合計	15(23) 22%(20%)	25(27) 37%(23%)	7(6) 11%(5%)	18(49) 27%(43%)	2(10) 3%(9%)	67(115)

アンケート調査の結果、「危険行為があった」は67件(複数回答含む)

取組み⑤ 街頭キャンペーン

ドライバー対象の街頭キャンペーンで啓発品を配布
(交通事故多発地域を重点的に実施)



おしぼり
作戦



啓発品



取組み⑥ 道路環境の整備

追突事故多発地域や狭い道路等に路面標示や速度抑制注意看板を設置。



今後の取組み強化

交通事故データを基に、事故多発地域に路面標示や注意看板の設置等を行っていく。

評価

⑤街頭キャンペーンの実施・⑥道路環境の整備

	内容	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
活動 ⑤	街頭キャンペーン実施回数	30回	32回	34回	36回	26回
活動 ⑥	道路標示・看板設置 件数	20件	32件	36件	41件	25件
短期	交通ルールに対する 意識の向上(アンケート 結果)	—	—	—	—	69.7% n=1084
中期	追突事故発生件数	86件	85件	75件	71件	58件
長期	交通事故発生件数	226件	218件	226件	173件	188件

事前指導の際のアドバイス

アドバイス

観光地である秩父では、市外者（レンタカー）による交通事故があるのではないかと

☛ 韓国の観光地チェジュ島では、レンタカーでの事故が増加

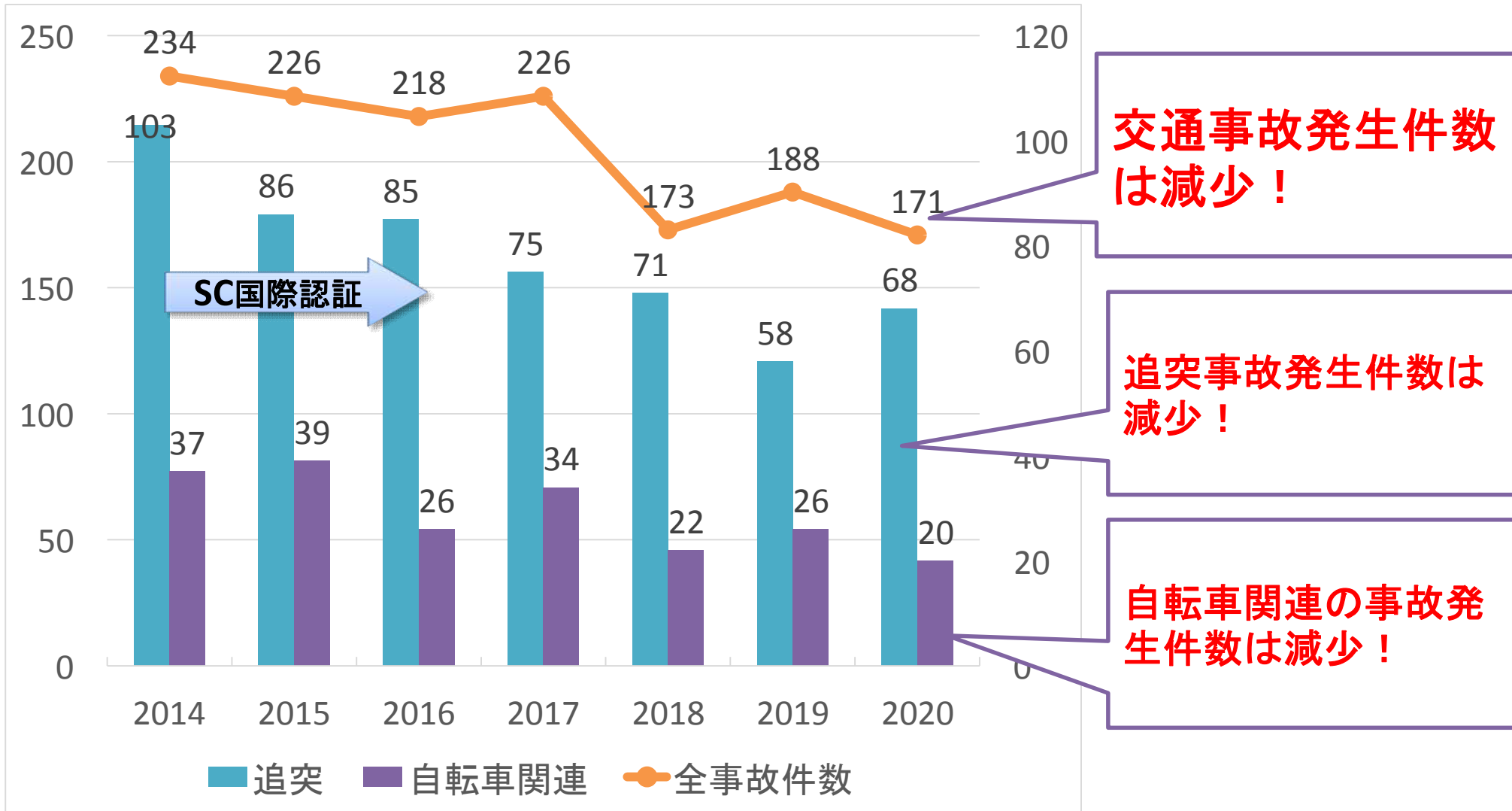
対応

レンタカーでの事故について、海外の方の事例も含めて、情報収集を開始する

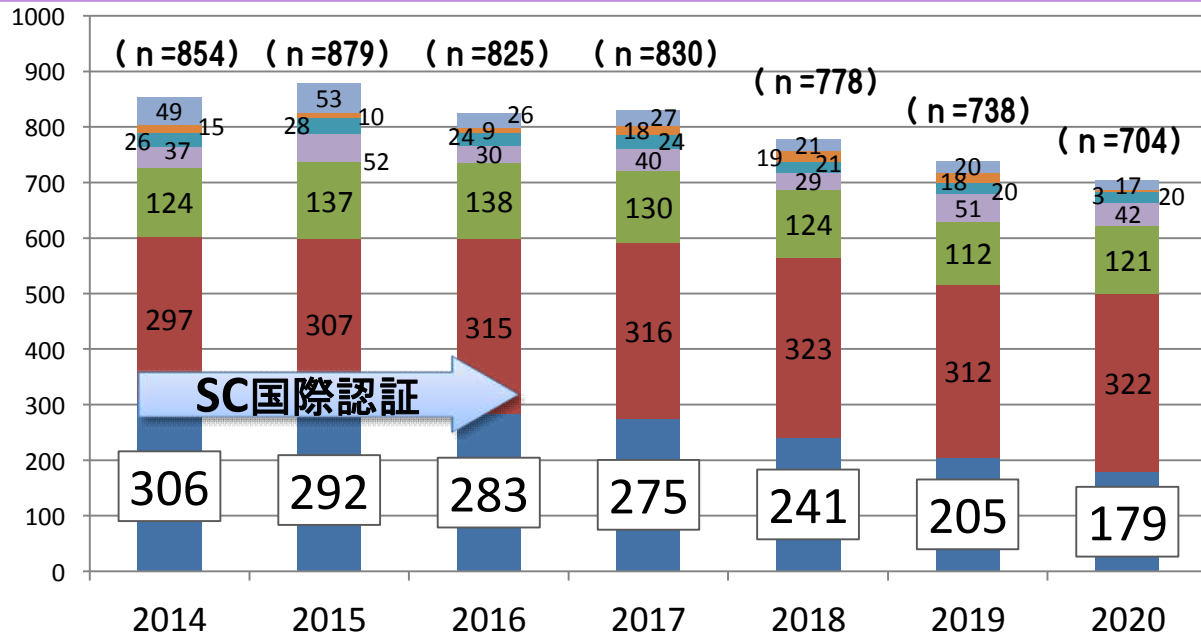
☛ 今後、収集方法を研究する

取組みによる全体的な成果①

(図表9:交通事故発生件数 追突事故および自転車関連) 出典:警察統計データ(2014年~2020年)



取組みによる全体的な成果②



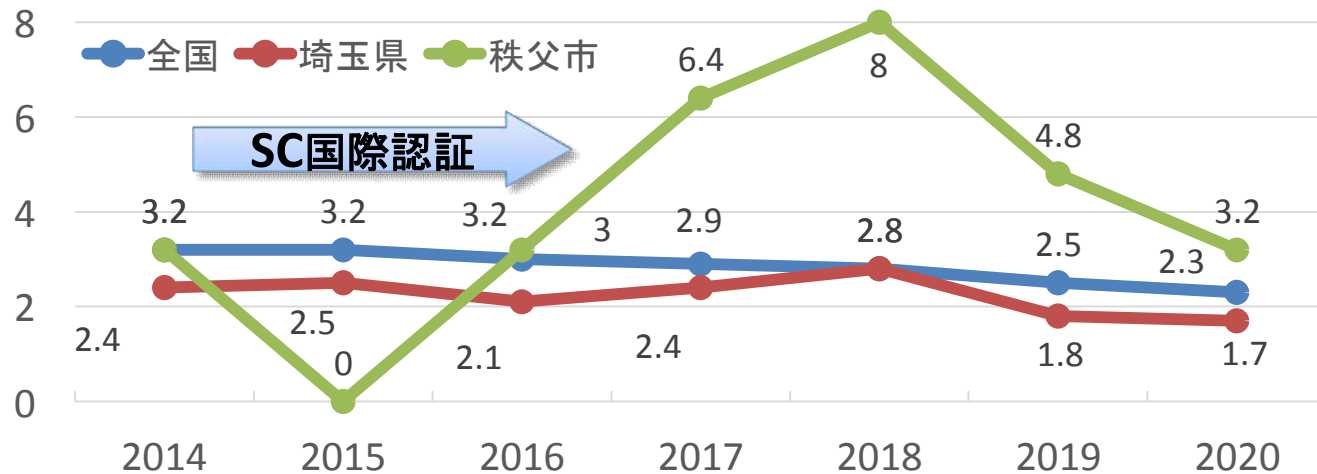
全体の救急搬送件数は減少し、交通事故による件数も減少を続けている。

(図表10: 事故種別による分類外傷・事故別救急出動件数)

出典: 救急搬送データ(2014年~2018年)

全国、県平均と比べて、高い割合を示している。
→今後の動向に注視

(図表11: 交通死亡事故発生件数 人口10万あたり)



出典: 警察統計データ(2014年~2020年)

認証後の変化・課題への対応

【新規取り組み】

セーフドライブプロジェクト

日常生活の中で、決められた速度や交通ルールを守り、安全走行に努める市民ボランティアを募集する。

優良ドライバーを増やしていくことで、運転に関する意識改革を図り、交通事故「0」を目指していくものである。

秩父市オリジナル
ステッカー



課題①

課題 交通死亡事故への対応

運転者に対する対策の充実（セーフドライブプロジェクト）を図り、歯止めをかける

課題 自転車ヘルメットの着用率の向上

自転車ヘルメット購入補助金の周知、小中学校へ着用を呼びかける

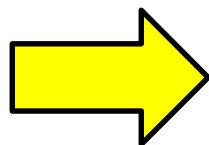
課題 より効果的な啓発・普及活動の実施

より効果的な啓発ができるよう、実施方法、啓発品を見直し、他対策委員会や団体との連携

課題②(既存の取組み状況)

取組み	2019年度	2020年度
交通安全教室(高齢者)	40回 1,112人	11回 307人
交通安全教室(子ども)	50回 4,428人	12回 1,233人
高齢者世帯訪問	539人	1,367人
街頭キャンペーン	26回	17回
道路環境の整備(道路標示・看板設置)	25箇所	24箇所

取組みの工夫

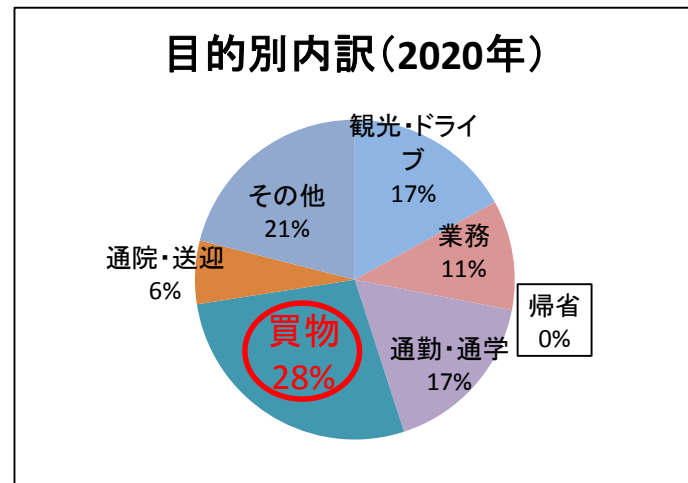
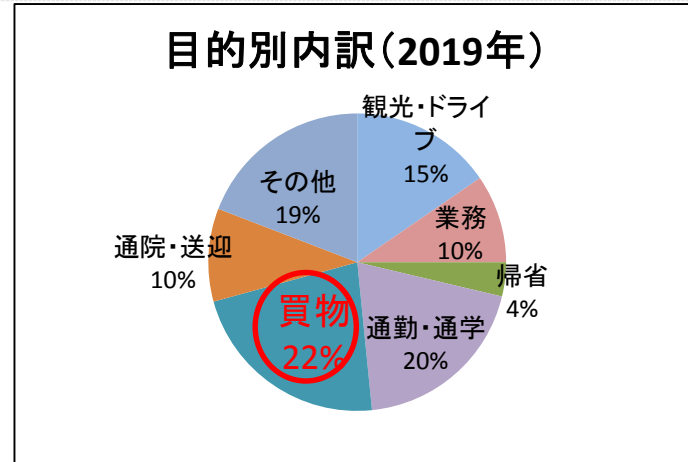
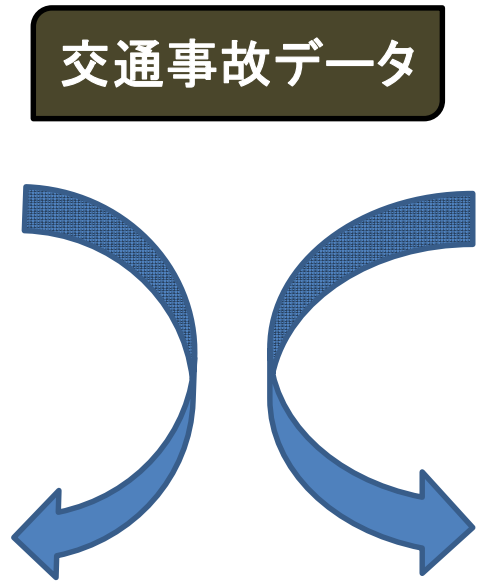
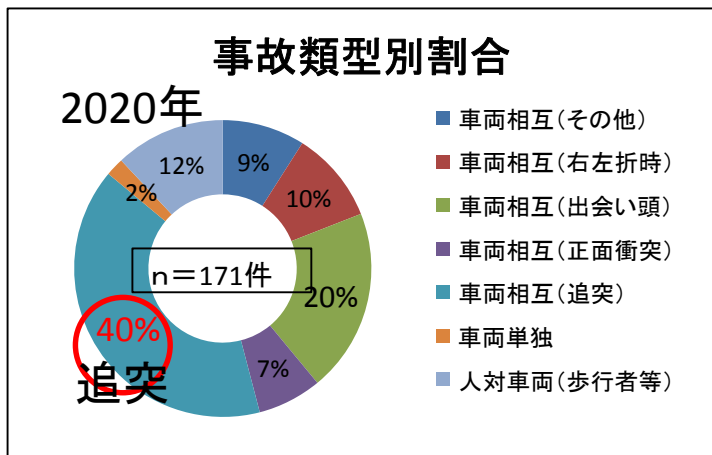
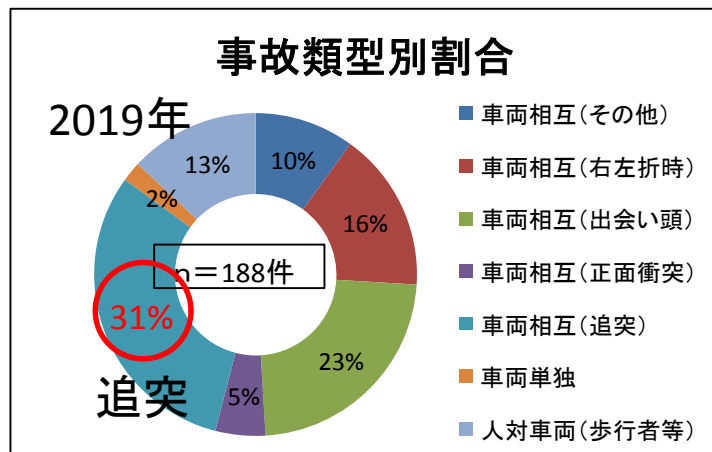


- ①接触しない工夫と感染症対策の実施
- ②感染症への予防啓発

取組み	工夫
交通安全教室 (高齢者・子ども)	<ul style="list-style-type: none"> ★感染予防に気を付けて実施(密にならずに喚起に気をつけるなど) ★交通安全啓発DVDを貸出
高齢者世帯訪問	<ul style="list-style-type: none"> ★ポストに投函する形で実施(例年より多くの世帯へ投函。感染症への予防啓発チラシも一緒に配布)

課題③ (感染症の影響)

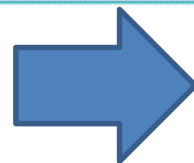
- * 市外ナンバーの車が多く見られる(委員の意見)
 - ➡ Go・Toキャンペーン、密を避けアウトレジャーを楽しむ方の増加
 - 市外ナンバーの死亡事故が発生(2019年0件0台➡2020年2件3台)
- * コロナ禍で身近な外出(買い物)での事故が多くなった。
 - 特に、追突事故に注意が必要である。



新規：新型コロナウイルス感染証への取組み

委員の意見

- ・市外車両増加による事故増加
- ・観光客の増加による感染症の拡大



- ・安全運転とともに、感染症対策も呼びかける

除菌ティッシュ、チラシ、簡易看板の作成・配布・設置

安全運転と感染予防を忘れずに!

観光客の交通事故が増えています

「コロナに負けない安全・安心なまち」
セーフコミュニティちちぶ



ちちぶしこうつうあんぜんこうほうたいし
秩父市交通安全広報大使

ねが
ポテくまくんからのお願い

ちちぶ
ようこそ秩父へ

ぼく
ねが
僕からお願いがあるよ。

こうつうじ こ かんせんしょう
交通事故と感染症に気を付けて、

ちちぶ たの
秩父を楽しんでね!

き さいこう おも
みんなで気を付けて最高の思い出を!

ちちぶしこうつうあんぜんこうほうたいし
秩父市交通安全広報大使 ポテくまくん

ずっと住み続けたい"日本一安全・安心なまち"をめざして
セーフコミュニティちちぶ 交通安全対策委員会

セーフコミュニティについて
ホームページで公開中

ポテくまくんのアフレコ
インスタグラムを見てね(´▽`)

油断大敵

秩父市交通安全広報大使 ポテくまくん

ようこそ秩父へ

交通事故と感染症に気を付けて

秩父を楽しもう!

秩父市イメージキャラクター
ポテくまくん

セーフコミュニティちちぶ
交通安全対策委員会



ご清聴ありがとうございました



A SAFE COMMUNITY

国際認証都市

セーフコミュニティちちぶ

